

七月三十一日。本日はカトマンドウより終日バスに乗りて西へ約二百キロ、ネパール第二の都市ポカラへ向ふなり。

昨日破損せしスーツケースを取手にて持擧ぐれば、ケースの重みにて歪み生じ、破損したる留金の部分不自然に開口す。同室のN先輩に相談せし處、スーツケース用のベルトにて締め上ぐるが良からむとの事なり。八時迄に荷物をバスに積込む約束なれど、現在七時半なれば未だ間に合ふとて、近くの商店街に向ふ。殆どの店は未だ開店せず。されど、小さき登山用品店開店せり。「スーツケース用のベルトは有りや」と問ふに、運良く「有り」とのこと。六百ルピーが店の言ひ値、余が四百ルピーと値切らば五百なら良しとの事なり。因みに一ネパールルピーは約一、一圓なり。以後、斯かる値段交渉に度々遭遇する事と爲れり。

八時半ホテル出發。冷房完備の大型バスにて舗装道路を行く。快適なり。ややありてふと見るに道路工事中とて舗装無くなれり。昭和三四十年代の日本の國道も斯かる様子ならんや。「算盤道路」なる言葉有りしを思ひ出せり。二百キロの道程を約八時間にて行くなり。舗装部分多かれど山道も多し。平均時速廿數キロなりや。

人家稀なる山中にて突然停車。男性一人乗車す。何事かと疑ひしに、「旅行社社長の弟」とのこと。彼も旅行終了まで同行するなり。彼の他にも既にカトマンドウより社長、ガイド、ポーター二人バスに乗りてあり。

夕刻ポカラに到着。此の街の名はネパール語で湖を意味する「ポカリ」が由來にて、フェワ湖てふ湖有り。又、多くのグルカ兵退職後に居住する地なり。ホテルに入り一旦解散の後五時過ぎに再度集合。湖をボートにて遊覽すること。ホテルを出て湖を見るに、湖の向ふ側半分雨降りたり。此方側は降らず。不思議な光景なり。暫くして余等の上にも雨粒落ち來れり。偶々其處に商店有りて雨宿りす。同行者の内傘購入する者添乗員を含め數人。店の奥にリュックサック吊るさる。ノースフェイスの品にて三十リットルを容るなり。毀れしスーツケースの替りに此れを買はんとす。五千ルピー又は五十米弗と言ふ處、日本圓四千圓にて商談成立す。ノースフェイスの文字、一瞬ノースフェイスと讀めたり。此の地は登山客多く集まる地にて歐米人日本人などの登山用品需要多く、廉價にて購入可能なりとぞ聞ける。